

**立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)**  
**在外研究**  
**2012年度研究成果報告書**

研究代表者	所属・職名		氏名	
	文学部・教授		久保田 浩 印	
研究課題	日欧における民族主義宗教運動とスピリチュアリズムとの連関に関する宗教史的研究			
研修期間	2012年 9月 1日 ~ 2013年 3月 31日 ( 212日間)			
経 費	年度経費	SFR 助成額	所属学部からの補助額	合 計
	2011年度	円	円	円
	2012年度	1,352,000円	1,000,000円	2,352,000円
主な滞在国 及び 研究機関名	国 名	研究機関名		
	ドイツ連邦共和国	ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ (フランクフルト) 大学		

**研究成果の概要** (図・グラフは使用しないこと)

本研究は、19世紀中葉から第二次世界大戦終結に至るまでの、ヨーロッパ特にドイツの「民族(至上)主義宗教 völkische Religion」運動と、同時期に北米を端緒としてヨーロッパ全土を席卷した所謂近代スピリチュアリズム(あるいはスピリティズム。「霊界」の存在と、「霊界(死者の霊)」との交信への信仰)運動という、二つの「近代的」宗教運動の同時代性に着目し、「西洋近代」に誕生したこうした「宗教」形態並びに、「西洋近代」とその「宗教」との非西洋地域における受容形態の分析を通じて、単に「近代」によって克服されるべき存在としての「宗教」(=「前近代」)という従来の支配的な解釈枠組みを再考し、「近代」の諸相を新たに照射し直すことを目指している。換言すれば、それぞれの地域の支配的宗教伝統との拮抗関係そして社会の「近代化」という文脈で、伝統的(「前近代的」)宗教性を代替あるいは刷新(「近代化」)することを目的とした諸宗教的・文化的運動が生まれてきたが、そうした運動に見られる「近代のねじれ」を史料に依拠して描き出すことである。本研究は2013年度前期にも継続されるが、2012年度内での研究において得られた成果並びに進捗状況は以下の通りである。本研究において、史料に基づき調査することを予定していた第一のトピックは、ヨーロッパ近代スピリチュアリズムの日本での受容(特に、浅野和三郎)、更には日本のスピリチュアリズム的宗教(特に、浅野和三郎と出口王仁三郎を中心とした大本=人類愛善会)のヨーロッパにおける活動(ヨーロッパのスピリチュアリズム諸団体との交流と協力関係)を明らかにすることであった。その内、後者については2013年度に調査を進める予定であるが、前者については、1928年にロンドンで開催された国際スピリチュアリスト連盟(シャーロック・ホームズシリーズの著者アーサー・コナン・ドイルが名誉総裁)の第三回会議に浅野(当時は大本と訣別して、独自の心霊研究に邁進していた)と元東京帝国大学心理学助教授の福来友吉(所謂「念写」の発見者)が参加していたという事実に着目し、西洋におけるスピリチュアリズム並びに心霊研究の諸動向の、両者に特有な受容と展開の諸相を宗教史並びに学問史的観点から検討した。その際、「近代」と「学問」と「宗教」との連関について、一方で「(スピリチュアリスト的)宗教」と「近代的学問」との決裂がもたらされる場合(福来)と、両者の融合がもたらされる場合(浅野)、という二つの方向性が確認されると共に、この事例において、西洋的近代の確立に邁進する当時の日本のみならず、ヨーロッパ自体においても、「学問」と「宗教」の双方の概念的揺れが如実に認められることが明らかとなった。また第二に、従来その関係が十分には研究されてこな

**研究成果の概要** (つづき)

かった、民族主義的宗教運動とスピリチュアリズムとの歴史的連関については、1920年代のドイツにおいて「心霊キリスト教 Geistchristentum」を説く反ユダヤ主義的な民族主義宗教者 Artur Dinter の小説をその政治史的・宗教史的文脈において考察し、彼の反ユダヤ主義思想を、「近代的宗教」即ち「近代学問化した宗教」として特徴づけ、その「(スピリチュアリズム的)宗教」と「民族(至上)主義」と「近代」的性格との錯綜した関係を解明した。先述のように本研究は、2013年度にも継続され、本報告は最終報告ではないが、本年度の研究の段階において明らかになった点としては、西洋近代スピリチュアリズムと近代的学問との相関は、「心理学」という単なる一学問分野の歴史に関わるものではなく、「近代的学問」そのものの成立と確立の過程を考察する際に決して無視し得ない問題であること(殊に、スピリチュアリズムや心霊研究が、確立しつつある「学問」、司法、既存の伝統的宗教との対立並びに共犯関係において占める位置)、並びに、民族(至上)主義的言説(例えば、ドイツにおける反ユダヤ主義言説)は、(政治運動としてのナチズムに収斂していくような)政治言説としてよりも寧ろ、当時の社会の文化言説(学問的、思想的、宗教的・スピリチュアリズム的、政治的想像力が織りなす混成体)として機能していたこと、が挙げられる。

**キーワード** (研究内容を適確に表しているものを5項目で記入)

[スピリチュアリズム] [近代ヨーロッパ宗教史] [民族主義] [学問史] [反ユダヤ主義]

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①~④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文(著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書(著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催(会名、開催日、開催場所)
- ④その他(学会発表、研究報告書の印刷等)

①  
久保田浩(単著論文)、「ドイツ連邦共和国における「宗教学」の制度化を巡る諸問題」、『宗教学年報』、X X X (特別号)、2013年、139-158頁。

②  
久保田浩(編著書)、リトン、『文化接触の創造力』、2013年、273頁。  
久保田浩(編著書)、丸善、『世界宗教百科事典』、2012年、912頁。

④  
久保田浩(招待講演)“Der Spiritismus als Gegenstand religionswissenschaftlicher Forschung – Der „moderne“ Spiritismus Europas und die „Moderne“ Japans“, Universität Frankfurt am Main, 06. Dezember 2012. (「宗教学的研究の対象としてのスピリティズム—ヨーロッパの「近代」スピリティズムと日本の「近代」」、2012年12月6日、フランクフルト大学)

※この(様式2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。